

令和5年 **4**月の**思いやり**通信



「温暖化ガス 2035年60%減を」 2019年比提示

IPCC 報告 目標上積み必須に

- *1850年以降の温暖化ガス累積排出量の4割超は直近20年間分。
- *2011~2020年の世界の平均気温は1850~1900年を既に1.1度上回ります。
- *気温上昇が1.5度を超えると異常気象のリスクが高まります。
- *今のペースでは10年以内に許容量に達する恐れがあります。
- *温暖化ガス排出量を2035年に2019年比60%、2040年に69%、2050年に84%減らす必要があると国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が分析しました。
- *日本はエネルギー基本計画上、2030年度も2割を石炭火力に依存します。
(2023年3月21日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



気温上昇1.5度超え目前 脱炭素、難路の国際協調

世界の気象災害損失、昨年40兆円

- *2015~2022年は観測史上最も暑い8年でした。
- *国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の被害の想定では、温暖化ガス排出量が多いままの4度上昇のシナリオだと、足元の世界人口の半分に当たる最大40億人が水不足に直面します。
- *英保険仲介大手のイーオンによると、2022年の台風や洪水などの気象災害の損失は2990億ドル（約40兆円）に上りました。
(2023年3月21日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

